

3時間目は演劇

中島充雅
作

【キャスト】

如月 ^α	……	♀
部長タISO	……	♀
南都マツク	……	♂
扉野ウインドウ	……	♀
爆裂ネット	……	♀
アツプル林檎	……	♀
青柳レイ	……	♀
プロキシ真理子	……	♀
エムエストス太郎	……	♂
森川リサイクル	……	♀
玉屋アクセス	……	♂
モード愛	……	♀
三ツ村ドメイン	……	♀
執行部1	……	♀
執行部2	……	♀
執行部3	……	♀
執行部4	……	♀
生徒1	……	♀
生徒2	……	♀
生徒3	……	♀
生徒4	……	♀
生徒5	……	♀
生徒6	……	♀
生徒7	……	♀
生徒8	……	♀
生徒9	……	♂
先生	……	♀
母	……	♀

第1幕

①素舞台

緞帳アップ。

素舞台という絶対条件。音もない。何もなし。地明かりのみ。

緞帳が止まる音。

部長タが上手袖から、足早に来る。

部長タ

部活を始めます。円になって下さい。

全員

はい。(自然に。しない奴もいる)

袖から、演劇部員達が、出てくる。

自然に、走ってくる奴もいれば、歩いてくる奴。もちろん点呼が始まる頃にやってくる奴もいて、そいつは着替えてな

かったりするはずだ。

部長タ

おはようございます。

全員

おはようございます。

部長タ

点呼を取ります。

全員

はい。

α

如月α。

部長タ

はい。

α

南都マック。

部長タ

はい。

部長タ

扉野ウインドウ。

部長タ

はい。

部長タ

爆裂ネット。

部長タ

はい。

部長タ

アッフル林檎。

部長タ

はい。

部長タ

青柳レイ。

レイ

部長タ

プロキシ真理子。

はい。

部長タ

エムエスドス太郎。

うっす。

部長タ

玉屋アクセス。

間。

部長タ

ねえ、アクセスは。

あれ？ アクセスー。

アクセス先輩、どこ行ったんだろう。

α

あれじゃない。あれ。

部長タ

あれ？

ウインドウ

どれ？

ネット

あれか。

林檎

どれなの？

レイ

あれだよ。

真理子

あれなんですか？

ドス太郎

間違いないっす。

α

だから何？

部長タ

追試。

α

あー。

数学だよ、きっと。

あー。

追試か。

数学か。

ネット

最悪だ。

ドス太郎

やばいっす。

真理子

アクセス先輩、大丈夫ですか。

部長タ

大丈夫じゃないよ。

ウインドウ

あいつ数学苦手だから。

ドス太郎

俺も苦手っす。

ウィンドウ 私もだよ。

部長タ 私も。

α 私も。

ネット 私も。

林檎 私も。

レイ 私も。

真理子 私も。

部長タ 何だ、みんな苦手なんだ。

全員 あはははははははははは。

部長タ みんな追試なんか受けないでね。大会近いんだから。

全員 あはははははははははは。

部長タ 追試ばかり受けていると演劇部辞めろって、親や担任に言われるよ。

全員 あはははははははははは。

部長タ では、外周しましょう。外に出てください。

全員 はい。

マックが一人、動かない。

α どうしたのマック。

マック 違うんだ。

α 違う？

マック 違うんだみんな。アクセスは追試じゃないんだ。奴は演劇部を辞めるんだ。

全員 えっ。

演劇部員、全員立ち止まる。

部長タ 今、何て言ったの？

α 演劇部を辞める？ アクセスが？

マック そっだ、辞めるんだ、あいつ。

真理子 嘘。

マック 嘘じゃない。

ウィンドウ 冗談でしょ。大会も近いのに。

奴は本気なんだ。

マック マジ？

奴の演劇部辞めるぞ決心は固い。この俺が確認した。

何で、何で辞めるんですか。マック先輩。教えてください。

嫌だ。

何。

それは俺も知らないからだ。

何で知らないの。

貴方達、親友なんですよ。

俺は、熱く聞いたんだ。だが、だが、奴は熱く、教えてくれなかった

……。

いちいち泣かないですよ。

あー、そっいえば。

えっ。

こないだ私、先輩と部室で二人きりになったんですよ。もうみんな先に帰って、私、忘れ物があったんで、一人で部室に戻ってきたんです。ラインしながら、そしたら、アクセス先輩一人で、部室にたまたま

ってたんです。夕日が真っ赤で、部室全体がきれいな夕焼け色に染まってたんです。

それで。

部内恋愛だ！

えっ。

アクセスは真理子にコクって振られたんだ。でショックでやめるんだ。もう顔合わせられないんだ、私達と。演劇部員が辞めていくお決まり

のパターンだ。

違います。アクセス先輩は最初から泣いていたんです。

えっ。

アクセス先輩は夕日を見つめていました。で、私、どうしたんですって聞いたんです。そしたら、急に泣き止んで、「あのさ、バナナの皮で滑った奴がいたらおかしいか」って聞くから、「そりやおかしいです」

って言ったんです。そしたら、「それは、どのくらいおかしい」って聞くから、「転んだ人の顔をSNSで友達に送りまくるくらいおかしいです」って言いました。そしたら、そしたら……ああ。

α
真理子
どうしたの？

私のスマホをそと取って、それで自分の顔を撮って、「送ってね。」
って言って去っていききました。

間。

ウィンドウ
つまり、何だ、奴はバナナの皮で滑ったから部活辞めるのか。

マック
違うと思う。

真理子
じゃ私のせいです。

マック
もつと違つ。

部長タ
とにかく、このままじゃダメだよ。

α
そつよ、これからどうするの。アクセスがいなかったら、誰が音響やるのよ。

アクセス、登場。

アクセス
みんな

全員
アクセス。

アクセス
ごめん、俺、部活辞めるんだ。

α
えつ。

アクセス
演劇辞めろつて、親がさ。親が言つんだ。

α
ちよつとアクセス。

アクセス
演劇やつても、進路の保証なんかどこにもないつて、担任も言つし。

α
そんなのいつものことじゃない。

アクセス
でも、いつも帰りが遅いし、成績は下がる一方だし。

部長タ
成績を演劇部のせいにするな。

アクセス
演劇のせいだ。

部長タ
何それ。

全員
(口々に) そつだ。

アクセス
お前らいいのか。いつもいつも演劇ばかり。いいのか。いつもいつも
追試ばかり。いいのか。いいのか。α。お前だつて、成績やばいんだ
ろ？

α
私、演劇好きだもん。ね。

全員
ね。

アクセス
そうか、だったら、俺は、俺は、今日から、演劇を嫌いになる。

α
えつ。

アクセス
みんな聞いてくれ。俺は生まれ変わる。

全員
えつ。

アクセス
俺は、俺は、演劇なんかーだいつきらいだー。

アクセスは走り出す。みんなも追いかけて、走り出す。

α
舞台は都立ア・ビビンバ高等学校。

部長タ
そこには私達演劇部の日常が繰り広げられている。

マック
これが俺達のいつもの風景。

真理子
ホントですか。

ウィンドウ
これは演劇部の私達の物語。

ドス太郎
うつす。

林檎
平成28年度。

レイ
岐阜県高等学校総合文化祭。

ネット
第6回全県交流公演。

全員
「3時間目は演劇」。

②学園天国

生徒1
起立。礼。着席。

先生(国語)
さあ、みんな今日もすがすがしい朝だね。では、今日は、

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」、ジヨバンニがお母さんの牛乳を取りに行

つたところの続きから行ってみよう。先生からまず質問するぞ。さあ、

ジヨバンニのうちは何牛乳でしたっけ？ はい、そつだ。雪印だった

ね。こら、演劇部ー、如月ー。立ったまま寝るなー。

先生
校長先生聞いてください。これは、国語の先生から聞いた話です。こ

れがまあ、生徒達の一時間目です。みんな寝てますから、全然授業に

なりません。特に演劇部員はだめです。立ったまま寝てる奴までいま

生徒1
起立。礼。着席。

先生(英語)

グッドモーニングエブリボディ。オツケーレッツスタ
デー。アー。レッススイレブン。ストロベリーフィールズフォーエ
バー。オウノー。ドントライトピクチャーオンザデスク。デイスイズ
イングリッシュタイム。オウノー。ドントテイクスマートテレホン。
ドントタッチ。ドントタッチ。ドント。——なによんどんじやーわれ
い。αキサラギ!

α
あつ、すいません。台本です。

先生
2時間目もだめです。校長先生。これは英語の先生から聞いた話です。

高校生は1時間目が終わって目が覚めてくると、まず友達とコミュニ
ケーションを取らなければ死んでしまうんです。友達にスマホでライ
ンしたり、先生を盗撮したり。あー演劇部。だめです。だめです。彼ら

は、教科書の下に、台本を必ず忍ばせています。

起立。礼。着席。

生徒1
そして、3時間目が終わったら。

先生
起立。礼。着席。

生徒1
4時間目は、奴らお腹が空いて、授業になりません。

先生
起立。礼。着席。

生徒1
5時間目なんか、お腹がふくれて寝る時間です。

先生
起立。礼。着席。

生徒1
6時間目。だめだめだめ。もう放課後何しようかなー。生徒の頭はそ
ればかりです。えっ演劇部。だめですよ。校長。ひどいになると、
授業中からシャージに着替えています。何? 熱心でいい。何いって
るんですか。えっ、「じゃあとりあえず、一番、生徒が集中していられ
るのは、何時間目なんだ」ですか。まあ、そうですね。いろいろご意
見はあるでしょうが、私は、3時間目じゃないかなと思います。大切
な授業は3時間目ですよ校長。

先生
照明戻る。

生徒1
起立。礼。着席。

先生
えー、じゃあ、みんな分かっていると思うけど、もうすぐ期末テスト
だ。家に帰ったら、何をするつもりだ。よし、こっから順番に言って
みる。

生徒2
勉強です。

先生
うん。

生徒3
図書館です。

先生
うん。

生徒4
塾です。

先生
うん。

生徒5
宿題です。

先生
うん。

生徒6
ご飯を食べます。

先生
ん?

生徒7
死ぬ気です。

先生
うん。

生徒8
がんばります。

先生
うん。

生徒9
(素振り)
がんばれ。

先生
演劇部です。

α
馬鹿野郎。

先生
先生はαを殴る。

α
何で?

先生
よーし、如月α以外は、問題ないな。よしみんな帰っていいぞ。

α
何で? こいつは? 野球部は?

生徒1
起立。礼。

α
生徒1、8、退場。

マック
α。

先生
南都、早く行け。

α
はい。俺、先行ってるから。

マック
うん。

マック、ダッシュで去る。

生徒9

……。

生徒9も去る。

α

だから野球部はいいのかー。

先生

いい。野球部はいい。だけど、如月α。お前は、このままではだめだ。

α

わけわかんない。

先生

わけわかれ。α、お前の成績はクラスで何番だ？

α

何番ですか？

先生

ビリだ。

α

ビリ？

先生

お前と愛とドメインでこのクラスの成績を下げてるんだ。

α

おー。

先生

お前が部活に使っている時間と、クラスでトップの成績の中川が勉強

α

に使っている時間は、ほとんど同じだろ。

先生

おー。

α

つまり、このお前が部活に使っている時間の少しでもだな、この勉強

先生

の時間に回すことができればいい。

α

先生、だから田中君は野球に時間を使っているんですよ。何で、田中

先生

君はよくて、私はダメなんですか。

先生

田中は、誰もが認める、甲子園の超高校級バッターだ。

先生

生徒9が出てきて素振りをする。

α

うち野球部強いもんなー。

先生

演劇を一生懸命やったって、誰が認めてくれる。

α

……。

先生

頑張りすぎなんじゃないか。演劇。それ進路の役に立つのか。

α

……。

先生

よく考えるように。

先生去りかける。愛とドメインが入ってくる。

先生。

愛とドメインも呼ばれたの。私達がクラスの成績下げてるんだって。

違うの。

えっ。

何だ、お前達。

はい。(紙を渡す)

何だ。おー。オー。

何。

お前達、生徒会に立候補するのかー。

えっ。

私達、自分を変えようって思って。

自分の可能性に挑戦しようかって。

そっか、よーしじゃあ、職員室で作戦会議だー。

はい。

三人、楽しそうに去っていく。

α

みんな部活何やってる？ テニス部。私もホントは直前まで迷ったん

だ。でも今は演劇部。あなた新聞部？ 締め切りが近いと遅くまでや

ってるね。夜道とか怖くない？ 親が迎えに来てくれる？ いいな。

私、そんなこと頼んだら、演劇辞めろって言われちゃう。ねえ、どう

して生徒会やるの？ 学校のためみんなのためって、貴方達演説して

るけど、予算たって行事たって、全部先生達が決めちゃって、貴方達、

準備のために夜遅くまで学校にいるけど、いいことあるの？ えっ、

進路に役に立つの？ 生徒会。ふーん。そっか、役に立つんだ生徒会。

ふーん。私はね、演劇部。大変だねー。みんなに言われるけど、楽し

いよ。でも、勉強する時間がないのと、帰りが遅いので、親に言われ

るのが、つらいかな。演劇って、市民権ないから。

③テスト

生徒1 起立。礼。着席。

先生 期末テストをかえーす。

全員 えっ。

先生 先生、自分のクラスに今失望していまーす。期末テストでこんな成績では何ともならーん。

生徒2 そんなに悪いんですか。

先生 先生泣いた。まじかんべんってぐーらい泣いた。みんな、テスト見たら、死ぬなー。

生徒3 平均何点ぐらい。

先生 当ててみる。

生徒4 70点。

先生、生徒4を殴る。

生徒5 62点。

先生 まだ。

生徒6 55点。

先生 もっと。

生徒7 48点。

先生 おしい。

生徒8 43点。

先生 カキーン。

生徒9 スイング。カキン。

全員 わー。

生徒9 エンドラン、そして、先生から、答案をもらって即死。

先生、テストを返す。もらった人間から、死んでいく。

みんな死んだか。

はい。

よーし、今度はがんばるぞーって思った奴から、生き返っていいぞ。

みんなむくむくと起き上がって帰っていく。
生徒2（中川）は死んでいない。

先生 中川は今回どうだったんだ。よかったんだろ。

生徒2 そんなことないです。

先生 平均点は？

生徒2 全教科でまだ、93点です。

先生 さすがだ。

生徒2 いえいえ。

先生 これからもがんばれ。

生徒2 はい。
αは匍匐前進で帰ろうとする。生徒2、通り過ぎ、振り返る。

生徒2 どこ行くの。

α 部活。

生徒2 そう。がんばってね。（軽く髪をかき上げていく）

α、匍匐前進のまま、点数をもつ一度見る。

α は、国語13点、数学0点、英語28点、生物16点、現社32点、
は、あー、ここに演劇の答案があったらなー、毎回100点だよん
にやろー。くそー。この点数じゃやばいな。こりゃ見つからないよう
に帰んなきゃ。

④家庭地獄

αは匍匐前進で進む。αの家に進む。

ここからマイム。玄関に張り付き、そっと手を伸ばす。

α ガチャガチャ。ギイ。

α ドアを開けて進む。

α 抜き足、差し足、忍び足。ぐー。

α 台所へ。玉じゃくしをかき回す。

α 今日は私の好きなシチューね。……ハッ。(素早く身を翻す)

α 槍が飛んでいく。側転で身をかわす。

α まさかブービートラップ。まずい、罠だ。ハッ。

α 機関銃の音。前転でかわす。手榴弾を投げるα。爆発音。額の汗を拭くα。背後に殺気。

α そこ！

α ガキン。母が一尺の物差しで斬りつける。

α 玉じゃくしで受けるα。

α ぶつかり合う二つの魂。

α お・か・あ・さ・ん。た・だ・い・ま。

α お・か・え・り・あ・る・ふ・あ。

α きよ・う・は・し・ちゆ・ー・だっ・た・の・ね。

α か・あ・さ・ん・う・で・を・ふ・るっ・た・の。

α ガキン。離れて距離を取る二人。

α ハアハアハア。

α お母さんに、見せる物が、あるでしょ。

α ハアハアハア。

α αは紙を渡す。

母 年長桜組、如月α。私はお母さんが大好きです。ちがうよー。テスト

母 よ。テスト。今日返ってきたんですよ。先生から聞いてるよ。

母 ハアハア。

母 はい。

母 ……。(渡す)

母 ……。

みんな、口々に不平不満を言い出す。

アクセス声 みなさん、この私にお任せください。

全員 えっ。

生徒1 この声は。

生徒2 誰？

愛・ドメイン おめどーり。

舞台中央に徒会執行部がいる。

アクセスはものすごいテンションで校内自主選挙演説中。

（この学校は3期制であり生徒会も3期制である。この物語は西暦20XX年の6月あたりを描いたSFである。）

アクセス みなさん長らくお待ちせしました。わたくしが、この度、都立ア・ピ

ンバ高等学校第94代生徒会長に立候補した、

玉屋一、

アクセス！

爆裂音。執行部ポーズ。そこにいた人間思わず拍手。

アクセス 私こと、玉屋アクセスは、みなさんに、聞いてほしいことがある。

全員 何。

アクセス それは、私が、この度、生徒会長に立候補した理由でもあるのです。

全員 聞きたいか。

全員 うん。

アクセス 私は、かつて、いや、つい最近、いや違う、つい今し方まで、演・劇・部員でした。

全員 おー。

アクセス なぜ、演劇部を辞めたか。なぜ3年間続けた演劇部を辞めたのか私。

それは生徒会長になってお世話になった学園に恩返ししたいからです。

全員 おー。

演劇部員達来る。

部長タ

α あっ。

アクセス。僕は、成績を上げるためとか、進路のために部活を辞めたんじゃない。

演劇部員

おい。今、学園は混乱しています。演劇で混乱しています。この混乱を止められるのは誰でしょうか。

愛 それは、演劇のことを少しでも知っている人間じゃないんですか。それは誰ですか。

ドメイン

玉屋一アクセス。

執行部 誰が止められますか。

アクセス

執行部

傲慢な言い方してごめんなさい。僕は、その、本当は唯のちっぽけな人間なんです。みんなにちっぽけな僕は何の役にも立たない、たとえるなら、みんなのお腹にある盲腸みたいなものです。でもみなさん、盲腸が盲腸炎になったら、盲腸が盲腸炎になったら、みんな死ぬですよ。だから、だから僕は会長に立候補したんです。

ネット

日本語おかしいぞ。

拍手がわき起こる。

マック 何だその態度は。

アクセス 部長。

部長タ 何？

アクセス 去年の演劇部予算はいくらだった？

部長タ 5万円よ。

アクセス 今年から50万。

全員 お。

アクセス しかも、演劇ホールを造る。

全員 おっ。おっ。

アクセス なんと部活で遅くなった場合は、タクシーで送迎。

全員 おっおっおっ。

アクセス さらに演劇部員ひとりひとりに俺のオリジナルTシャツをつける。

全員 ……。

アクセス、戻ってきてよ。

間。(この時、ドス太郎のスマホにメールが来るので、ドス太郎は退場する)

α そんな意地張らなくなっただっていいじゃない。

アクセス

α もう私達、これからは、大手を振ってこの学校で演劇できるんだからさ。また、今まで通り、やっていこうよ。生徒会なんかやめてさ、ねえ。

アクセス そんなに俺のTシャツが。

α そうじゃない。

アクセス 今更戻れるわけじゃないじゃないか。あんなにみんなにひどいこと言っただけ。

α もう誰も気にしてないよ。ねえみんな。

全員頷く。ネットは首を振る。

α それに、アクセス以外の誰が、うちの部活の音響やるの。アクセスの代わりなんていないよ。

ドス太郎 あの一先輩。新入部員です。

全員振り向く。ドス太郎はリサを連れて来る。

リサ こんにちは、1年Y組の森川リサイクルです。

ドス太郎 ほら趣味とかさ。自己紹介。

リサイクル 趣味は、そのお、音楽鑑賞とか、作曲とか、音の編集です。

全員 えっ。

アクセス ちくしょー。やっぱり演劇なんか大嫌いだー。

執行部 待ってー。

執行部、退場。

⑥演劇教室

生徒1 起立。礼。

全員 おはようございます。

生徒1 着席。

先生 ではー、いまから、演劇の授業を始めます。はい、じゃあ教科書出して、表紙が野田秀樹のやつです。では今日は、教科書の562ページ、第75章、ギャグについてみなさんと、勉強したいと思います。

生徒達戸惑いの反応。

先生 騒ぐな。騒ぐな。はいじゃあ、中川。

生徒2 はい。

先生 ギャグとは何だ。

先生 はい、ギャグとは、対話者同士の間で発生する重心の移動を相対的に表現したもので、

先生 はい、ありがとつ。じゃあ、如月。

α 笑いを取ることで。

先生 正解。

先生 才ー。

先生 で、今日は、笑いの基礎について、みんな考えてみよう。はい、じ

生徒2

やあまず、相手がもし、ボケたら、中川、君ならどうする。ボケたら、介護します。

先生

如月。ボケたら？

α

突っ込みます。

先生

そっだね。ボケたら突っ込む。これが、笑いの基本だ。じゃあ、今日はこのボケたら突っ込むについて、みんなで勉強してみよう。

暗くなる。二人の部員が浮かび上がる。

先生

じゃあ、みんな、この単サスの周りに集まって、はい触っちゃだめ。二人とも緊張してるから。はいはい。今日は、特別に演劇部の皆さんに授業に協力してもらってます。では、ボケと突っ込みを見せてもらおう。

部員A

どーも。

部員B

どーも。

部員A

いやあ、アツはナツいですね。

部員B

そっですね。

部員A

おい。

部員B

え？

部員A

突っ込めよ。

部員B

どこに？

部員A

どこにじゃない。

部員B

何を突っ込むの？

部員A

何をじゃない。私がボケたら突っ込んでよ。

部員B

え？ ボケたの？

部員A

今ボケたでしょ。

部員B

ボケたら介護しなきゃ。

部員A

バカ。私がボケなんだから、あんたは突っ込みやってよ。

部員B

何をボケたの？

部員A

アツはナツいですねって言ったじゃない。

部員B

そっですね。

部員A

そっじゃない。

部員B

どうなの？

部員A

私が「アツはナツいですね」って言ったら、「それを言うなら夏は暑いですねでしょ」って突っ込んでしょ。

部員B

夏が暑いのは当たり前じゃない。そこじゃない。

部員A

あ、分かった。夏は暑いをアツはナツって言い間違えたんだ。そっそう私が言い間違えました。ってわざとやってんだよバカ。

部員B

そっいうのノリツッコミって言うんでしょ？

部員A

ちゃんとやれよ。

部員B

何でやねん。

部員A

どこで突っ込んでんだよ。

部員B

間違えました。

部員A

ダメだこりゃ。

部員B

めでたしめでたし。

部員A

どうもありがとうございました。

部員B

間。

部員A

先生拍手。

部員B

では、ギャグがすごく難しいってことが分かったところで、8ページの第2章、照明について、勉強したいと思います。まず最初の明かり。

部員A

64のブルーがつく。

部員B

はい、この色は何ですか、中川さん。

部員A

青です。

部員B

違います。

部員A

えっ、だって、これ。

部員B

生徒達反応。

部員A

はい、静かに。では、分かる人。

部員B

はい、これは、64です。

部員A

64。

生徒2 64、64って何。
生徒3 任天堂だよ。
マック 違っよ。
部長タ カラーフィルターの番号だよ。
先生 はい、じゃあ、これ。

地の生がつく。

α
全員 生です。
生徒2 生って何、生って。
生徒4 生ビールだよ。
マック 違っよ。
生徒2 もう私耐えられない。
ウィンドウ カラーフィルターが入ってない明かりを生って言うんだけど。
先生 じゃあ、これは。

ホリに明かりがつく。

α
全員 これは、ホリ。
生徒5 ホリ。
生徒6 何？
マック 人の名前？
林檎 違っよ。
先生 後ろの白い幕をホリゾント幕と言います。
じゃあ、最後にこれ。

パーパーのパーライト。

α
全員 おー。
先生 パーパーのパーです。
パーパーのパー。
パーパーのパー。

全員 パーパーのパー。
レイ 88番のカラーフィルターをパーライトに。
生徒2 ふざけないで。何よ、みんな、私のことパーだっていうのね。パーよ、どうせ、私なんかパーよ。こうなったら、夜の校舎窓ガラス壊して回ってやる。〔※〕

生徒2、ナグリを持っている。

生徒7 あ、ナグリだ。
生徒8 ナグリ持つてる。
先生 中川さん、ナグリなんか持って危ない。
全員、口々に「ナグリ」。

生徒2 もう、かなづちって素直に言いなさいよ。

生徒2、走り去る。みんな追いかけて走り去る。

α
時間割の3時間目に演劇って本当に書いてあるね。私達はやっぱり嬉しいよ。だって、もうこれからは、部活で遅くなっても、いつまでも「演劇」ばかりやって、怒られないもん。これからはさ、遅くまで「演劇」やって大変だねって言うてもらえるからさ。私達はこう言うんだ。

台詞の最中に演劇部員達集まってくる。

全員 がんばります。

⑦大会宣言

部長タ おはようございます。
全員 おはようございます。
部長タ ストレッチやります。

全員 はい。

全員ストレッチ。生徒1・3・4やってきて、まねを始める。

ウインドウ

発声始めます。

全員 はい。あめんぼあかいなあいうえお。

全員、発声。生徒5〜8やってきて、まねを始める。

林檎

マジヤンプ。

全員

ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま・ま。

レイ

ダンスやります。

はい。

ダンス。

ダンスの最中、バットを持った生徒9がやって来て、一緒に踊る。そして、ダンス短縮バージョンの中、ナグリを持った生徒2がやって来て、一緒に踊る。

ダンス終わって、部長夕前へ。

部長夕

みんな演劇部に入りたいの。

全員

うん。

α

発声とかダンスとか裏方とか夜遅くなるけど大丈夫。

全員

うん。

マック

よし、みんなで青春だ。

全員

おー。

アクセス

それはならーん。

アクセス

とどろく雷鳴。慌てふためく人々。生徒会執行部登場。

真理子

あーっはっはっはっはっはっはっは。

マック

あれは、
アクセス。

リサ

アクセス

執行部

アクセス

アクセス

誰ですか？
そうです。わたくしこそ、第94代ア・ビビンバ高校生徒会長に当選した。
玉犀ー。
アクセス。
爆裂音とポーズ。

ドス太郎

リサ

愛

ドメイン

アクセス

全員

部長夕

マック

アクセス

林檎

アクセス

レイ

アクセス

全員

アクセス

愛

全員

生徒7

ドメイン

生徒1

愛

ドメイン

全員

アクセス

ポーズが変わったぞ。
変わった人ですね。
わがア・ビビンバ高等学校好感度ナンバーワン生徒会長から、緊急宣言です。
みなさん、耳かっぽぼじって聞いてください。
本日より、演劇部への新たな入部を許可しない。
えっ。
なんでだ、アクセス。
今度は演劇部に対する嫌がらせか。
違う。
何が違うの？
演劇はみんなでやるものだ。だから演劇部だけが上演をやっているだけだ。
何が言いたいなの？
校内演劇大会を実施します。
校内演劇大会。
そーです。校内演劇大会。本校クラス毎で演劇を発表してもらいます。
期日は期末考査の一週間後。
えっ。
じゃあ、試験期間中も。
演劇の準備に当ててください。
そんなことやったら、みんな成績下がっちゃうじゃない。
下がります。むしろ上がります。
なぜかって、それで、クラス全体の演劇の成績がつくからです。
えー。

先生も一緒にいて一緒に驚いている。

そうだったのか。

先生。

先生 いや、生徒会執行部で提案されてね、たった今職員会議で可決したんだ。演劇大会で、演劇の成績がつく。

生徒2 それってどうやって決まるんですか。

執行部1 一番いい演劇をつくったクラスは全員演劇で5がもらえます。

全員 おー。

生徒3 じゃあ、一番ダメなクラスは。

執行部2 全員演劇は1。クラス全員仮進級です。

全員 えっ。

執行部3 しかも、ギャグをはずしたり、台詞を忘れたり、照明や音響でミスをする。

執行部4 留年が決定します。

全員 うそ。

先生 仕方がないんだ。さあ、みんなしっかり勉強すること。いいか。

愛 そして、演劇部はクラス演劇とは別に発表してもらいます。

演劇部員 何。

部長タ どういうこと？

ドメイン 演劇部の公演を、演劇に関する成績の評価基準とするためです。

マック なるほど、お手本って奴だ。

アクセス その通り。君達は、お手本だ。演劇部がすばらしい上演をしたら、君達の成績は上がり、部の存続は保証される。

部長タ 部の存続？

アクセス 評価に値しない演劇部は廃部になる。

演劇部員 えっ。

アクセス みんなが、演劇やってんなら、部活なんて最初から必要ないじゃないか。

α アクセス、それ、本気で言ってるの？

マック この野郎。

マック、アクセスに殴りかかる。

アクセスとマックのつかみ合い。

そして、周囲に両断される。両者、羽交い締め。

はなせ。はなせ。

こいつに一発。

部長タ この勝負、ステージで決着を付けましょう。

アクセス 悔しかったら、俺をぎゃふんと言わせてみる。

マック 言わせてやるさ。

アクセス 演劇部の上演題目は何だ。

真理子 先輩のおかげでできた台本です。

レイ 俺？

私を書いたの。

題して「バナナをめぐる冒険」。

⑧「バナナの冒険」

音楽。照明。全員去る。演劇部のダンス。

マック お疲れ様でした。

全員 お疲れ様でした。

マック さあ、みんな、本番まで後少した。後少して、俺達の舞台が完成する。

つらいと思っけど、みんながんばってくれ。

はい。

じゃあ、少し休憩、各自スタッフの仕事を手伝ってくれ。

全員 蜘蛛の子を散らすように去る。

マック そしてマックはバナナの皮ですってんころりと転ぶ。

マック いった。誰だよ。何でこんなところにバナナの皮が。ちくしょう。バナナのばかー。

バナナの皮を投げる。

するとバナナのかぶり物をしたαがやって来る。

α

マック

私が悪いのよね。

α

マック

えっ。

α

マック

α

この曲はあかんでしょう。

部長タ

ウィンドウ

えっ。

部長タ

リサ

はい。

リサ

ウィンドウ

一年の新鮮な感覚で、この曲

どう思う?

個人的には先輩の選曲センスはだめだと思います。

な。

部長タ

ウィンドウ

よせ。

くそ。

この曲悪いと思う人は拳手。

全員拳手。

ほら。

一年のくせに、一年のくせにどこがダメなんだ。お前に演劇の何が分かるんだ。

やめな。

音響や照明について言い争い。

みんなやめて。

えっ。

こんなんやめて。こんなんで、こんなんで本番大丈夫なの。

ばか、なんてこと言うんだよ、ネット。

だって、だって、みんなの気持ちがバラバラじゃない。

えっ。

ちつくしよー。こんな部活辞めてやる。

えっ。

本番が近付くと、部員達ひとりひとりの緊張もピークに達します。気持ちは焦るし、本番は迫ってくるし、なのに、部内の人間関係はいよいよ溝を深めていくというストーリーの高校演劇をよく見かけますよね。彼らは必ずこう言います。「だってみんなの気持ちがバラバラじゃ

⑨ 演劇部員の姿

真理子はαのかぶり物を脱がせる。

部長タ
ねえ、演出。

ウィンドウ
うん。

α
ありがとう。

マック
照明。

ネット・ドス太郎
はい。

マック
この照明の色、まずくない。

ネット
まずい。

マック
もっと、俺色に赤くせ。

全員
部長タ
「ない」。
バラバラじゃない。
普通思ってもそう言うこと言わないんですけどね。で、みんなバラバラになって、

みんなとにかく体でバラバラを表現する。

部長タ
時には、堤防が海岸で男子部員二人が殴り合って。ヒテツブ。

全員殴り合う。そして、倒れる。

部長タ
全員
結局本番前日にはみんなそろって、明日頑張ろうって言うんですよ。がんばろう。

⑩リハーサル

アクセス
そこまで。

愛
全員
演劇部さん。リハーサルを終了してください。
えっ。
生徒会執行部がやって来る。

生徒会執行部がやって来る。

α
アクセス。

ドメイン
全員
たった今から、このステージは生徒会執行部が取り仕切る。
何。

マック
アクセス
ステージは演劇部が優先して使えるんじゃないのか。
ステージはみんなのものだろ。
そっだそっだ。

生徒達
生徒達、登場。

愛
生徒達
3年X組さんリハーサル始めてください。
はい。お願いします。

生徒2
如月さん。

α
生徒2
中川さん。
私、演劇の勉強もしたの。もうあなたには負けない。

先生
生徒2
中川最近キャラ変わったんだ。
台本は私が書いたの。本校のスーパー野球虎田中君の愛と(回転)青春の(回転)物語。

α
生徒2
中川さん、普通にしゃべって。
んー、ミュージック☆スタート。

音楽。生徒9は素振り。他の生徒は踊り出す。
生徒7・8は踊れない。

生徒2
ストップ。どうして踊らないの？
振付覚えてない。

生徒7
この前練習出られなかったから。
練習さぼったからできないんですよ。

生徒8
さぼったわけじゃない。
ダンス苦手だし。

生徒7
そんなのやる気の問題でしょ。頑張ってるよ。
頑張ってるよ。頑張ってるけどできないの。

生徒2
頑張ってるよ。
頑張ってるよ。

生徒8
中川さんには分からないよ。頑張ってもうまくいかないの。結局、中川さんみたいな人がうまく行くんですよ。

生徒7
私は頑張ってるもん。
もっいいよ。行こう。

生徒8
うん。
バカー。

生徒9
生徒9は生徒7・8をヒンタ。

生徒2
田中君。

生徒9
最初は誰だって、球拾いなんだ。

生徒9、走って行く。

生徒2

田中君。

生徒2は追いかけていく。みんなも追いかけていく。演劇部達とアクセスは残る。

ネット

あなたには無理だよ

アクセス去る。

愛

お願いがあるの。

部長タ

何？

愛

演劇部に大会の運営を手伝ってほしい。

レイ

それってちよっと都合良すぎるんじゃないの？

林檎

メチャクチャな条件出してきたのはそっちでしょ。

ドメイン

ごめんなさい。でも、どうしても成功させたいの。

部長タ

生徒実行委員会を作ったら？

愛

え？

部長タ

大会はみんなで作るもんだよ。

愛

生徒実行委員会……考えてみる。

部長タ

手伝っよ、演劇部。

愛

ありがとう。

ウィンドウ

甘いな、部長は。

部長タ

困った時はお互いさま。早速計画しよう。

生徒会執行部・演劇部、去る。

αが残る。それに気付くマック。

α

アクセス。

マック、去る。

⑪母と娘

αの家。

母

おかえりー。疲れたでしょー。さあさあ、今日は、あなたの好きなシチューですよ。さあさあ手を洗っていらっしやいよ。あつ、それとも、先にお風呂かい、ダンスで手足に疲労が残ってるだろー、バスクリン入れといたからさあ、芯まで温まるよ。あつ冷蔵庫にアイス冷えてるから、いつ食べてもいいんだよ。ほんと、毎日毎日、演劇大変だねー。どうする、シチュー、お風呂、アイス。どれからにする。

母 α

今日は、アイス。

母 α

はい。(紙を渡す)

母 α

はい。(紙を渡す)

母 α

あら、何これ、期末テストね。国語3点、数学マイナス9点、英語8点、生物6点、現社3点。まあ、演劇やってるからしょうがないね。って言うわけないだろー。

母

母、三尺の物差しで斬りつける。ふたで受けるα。カン。

母 α

このテスト何！
だって勉強する暇ないもん。

母 α

授業中何やってるの。

母 α

頭バカだから分からないの。

母 α

頭のせいじゃないで。

母 α

だって遺伝だもん。

母 α

お母さんのせいかな。

母 α

もーいって。演劇やってるから私はいいんです。

母 α

そんな演劇やめろお。

母 α

何で。

母 α

演劇のせいにしてるだけじゃない。今は何、みんな演劇やりながら、勉強もしてるでしょ。あんただけ特別じゃないでしょ。そりゃあ、そうだけぞ。そっでしよ。

母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α 母 α

うん。——なあってねえ。そういう展開しないの。何言ってるの、母ちゃん。

母ちゃん。

今年から演劇でいろんな大学が推薦で行けるもんね。

えー。

先生言ってたもんねえ。

うそー。

どーする。早稲田とか東大とか岐大とか、私が行ったら。もうすぐくない。町中大騒ぎじゃん。んま、如月さんとの娘さんすこいわすこいわすこいわーんもー。

あほだ。

えつ。

あほさん。おやすみ。

ちよつと待ってよ。

おやすみー。

何があほなの。

国語3点、数学マイナス9点、英語8点、生物6点、現社3点。あほじゃん。何でマイナスなの。ちよーあほじゃん。こんなで大学行って何するの。

入れば何とかなる、それが日本の大学。なら自分で授業料出してください。

え。

何で、自分が好きなことだけやって夜遅くまで遊んでる人のためにお母さん高い大学の授業料払わなきゃいけないの。

遊んでない。

お母さん一人で働いてるの。あんたが遊ぶ金稼いでるんじゃないよ。

遊んでない。

お母さんお父さんと別れて、一人でがんばってるの。

そんな私のせいじゃないでしょ。

あほ！

母、ぶつ。

母 α

ぶつた。

あほだ。あんたあほだ。国語3点、数学マイナス9点、英語8点、生物6点、現社3点。あほだ。学校何しに行ってるの。

母、もう一枚の「校内演劇大会保護者様御案内」にここで初めて気付く。

α 母

……校内演劇大会。

……私だつてさあ、がんばってるんだよ。私、何やっても、頭悪いから、うまくいかないしさあ。勉強苦手だしさあ、足遅いしさあ、友達作るの下手だしさあ、料理もお母さんの方が上手だしさあ、一度でもシチュー上手くできたことないしさあ、お母さんあの時おいしいって言ってくれたけど全然だめなのにさあ、なのに私、演劇まで、なくなっちゃったらさあ、演劇までなくなっちゃったらさあ。

母去る。

第3幕

⑫ 仕込開始

α

私は多分泣いていました。ちよつとそこで転んだから、バナナの皮をうっかり踏んじやつたから、だから私は泣いています。でもバナナは言っています。君は何で泣いているんだい。その涙は僕のせいなのか。僕が君を悲しませる。そうじゃない。そうじゃないよ。じゃあ、誰のせいでは涙を流すんだい。バナナは私に話します。そして私は考える。じゃあ誰のせいなんだろう。親のせい、友達のせい、学校のせい、社会のせい、それとも自分のせいなのか、それはまるで、バナナの皮を踏んづけて、漫画みたいにくるっと転んだ私達の、漫画みたいな大粒の涙、嘘っぽく漫画みたいにくるっと転んだ私達の、漫画じゃなくて漫画じゃなくて、真実の謎をめぐるこれはほんとの冒険なのだと思う。その問いかけが始まったとき、私の中で、バナナをめぐる冒険

生徒3
全員
が始まるのだ。
演劇部さん、仕込み開始してください。
はい。

明かり戻る。そこは仕込み中。

執行部1
全員
執行部1
全員

4バトン降ろして。
はい。
エッジ。
はい。

バトン降りてくる。バナナの吊り物を、演劇部員が持って来る。
舞台後方で装置セット。ナグリの音。

執行部4
全員

4バトン固定しました。
はい。

舞台上にいるのは、演劇部員と生徒実行委員会と先生。
生徒実行委員会Ⅱ生徒会執行部と生徒達。
執行部2が介錯棒で灯体の振りを変える。

ネット
執行部2
ネット
部長タ
ネット
執行部1
部長タ
ネット
執行部3
ネット
愛

このあたりまで振ってください。
これ以上無理です。
えっ何で。
灯体のネジがガチガチにしてあるんだと思う。
誰、やった人。
すいません。
ネット。
1サス降ろす。
時間は。
14分です。
余裕だよ。1サス降ろしてください。
いいんですか。タイムオーバーは減点ですよ。

ネット
愛
ネット
ドス太郎
執行部1
執行部4
全員
執行部1
愛
執行部2
執行部3
愛
執行部4
全員
執行部1
執行部2
愛
執行部4
全員

1サス降ろしてください。
2サスの振りまだでしょ。
降ろして。
吊り物の仕込み終わりました。
バトン飛ばして。
バトンアップします。
はい。

愛。1サス降ろそ。
えっ。
できるよ。
そっだよね。
ちよっと。
バトン固定しました。

はい。
やらせてよ。
そのための実行委員会ですよ。
もー。

執行部1
愛
執行部2
執行部4
全員
執行部4
全員

1サス降ろして。
1サスダウンします。
はい。
エッジに付く生徒達。

生徒7
生徒2
生徒7
生徒3
生徒4
生徒8
生徒2
生徒8
執行部4
全員
生徒7
生徒2
生徒7
生徒3
生徒4
生徒8
生徒2
生徒8
執行部4
全員

ごめん。
何？
あの単サス、私が触ったの。
大丈夫、何とかなるよ。
がんばろ。
あの時はごめんね。
(しーっ)
(しーっ)
1サス固定しました。
はい。

1サスが二人を分ける。
ネット・執行部1・生徒9で単サスを振る。
αが明かりの中に立つ。
舞台後方に演劇部員とドメイン。

真理子
あれ、引っかかってませんか。バナナの吊り物。3サスに。
あー。

ドメイン
吊り物のひもが。

ドス太郎
灯体に引っかかっているっす。

ウインドウ
これ、やばいんじゃない。

リサ
やばいです。

林檎
どうしよう。

レイ
バトン降ろしてください。

ドメイン
もう無理です。

レイ
何で。

ドメイン
降ろす最中に、糸を切ると思います。

全員
えっ。

ウインドウ
ダンスの最中に、これ降りてくるんだよ。

ドメイン
なら、ダンスの最中に切れます。

ドス太郎
そんな、あんな苦労して作ったのに。

マック
大丈夫だ、諦めるな。

ドス太郎
どうするんです。

マック
分かん。

全員
えっ。

執行部2、介錯棒を持って来る。

執行部2
どこですか。

ウインドウ
あの、先っぽのところの。

執行部2
あーはいはい。んっしょ。あっ。

ウインドウ
あっ。

全員
あー。

マック
上の糸と絡んでるぞ。

レイ
嘘。

真理子
もうだめだよ。

ドス太郎
あー。

ウインドウ
だめじゃない。

真理子
何で。

ウインドウ
何とかすること考えなきゃ。

執行部2
じゃあ、上の方さ、あー届かねー。

執行部4
1サスアップします。

全員
はい。

α
脚立取ってきます。

全員
えっ。

α
部室にあるじゃん。大きいの。あれ。

ウインドウ
部室。

ドス太郎
あー。

α
私走って取って来る。

執行部4
1サス固定しました。

全員
はい。

ウインドウ
頼む。

α
うん。

α
去る。

ネット
α、もう一度、単サス立って。

真理子
いないよ。

ネット
えー。

ウインドウ
今、部室へ、脚立を。

部長タ
キャストが舞台離れるなー。

執行部3
仕込み終了まで、あと10分です。

⑬トラブル

部室。そこにはアクセスがある。

黄昏。アクセスはミキサーを見つける。
ミキサーを開けて、フェーダーに触っている。
そこへ、αが来る。

α
アクセス

あつ。
アクセス、あわてて出ていこうとする。

アクセス

ごめん。勝手に入ってた。

α

どうしたの。

アクセス

ごめん、その、ミキサーのフェーダー触ってた。はは。
フェーダー。

アクセス

客席にいたんだけど、その、音響係ってさあ、みんなが舞台で仕込み
してる時って、何にもすることがないんだよね。だから、フェーダー
触るしかないんだよね。で、何か急に、触りたくなくてさあ、みんな
の芝居が始まる前にさ。ははは。

問。

アクセス

今、仕込み中じゃん。

α

あつ、しみじみしてしまった。

アクセス

何かあった。

α

ちよつと、脚立を取りに。

α、ダッシュで脚立を取りに行く。

アクセス

手伝おうか。

α

会長はいいよ。

アクセス

会長って。

α

今は会長でしょ。

α、そのまま脚立を持って、行くところ。ふと立ち止まる。

α

アクセスってさ……演劇大好きなんだね。
マックが来る。

アクセス

好きだよ。

α

私も好きだよ。

アクセス

じゃあ、客席で応援してるから。

アクセス去る。

α、振り向くとマックが真っ黒に燃えていく。

α

あつマック。

マック

女の子一人じゃ、脚立重いだろうつてね、手伝いに来たよ。

α

ありがと。

マック

と思ったら、アクセスがいたよ。

α

うん。

マック

そして俺はかわいいピエロさ。

α

はっ。

マック

ちつくしよー。こんな部活やめてやるー。

α

マックー。ちよつとー。

マック・α、去る。

執行部3

仕込み終了まで、あと8分です。

全員

はい。

執行部1

ボーダーハーフ。17番つけて。

下単つく。真理子立つ。

ウィンドウ

真理子もっ少し、前見て、視線それでいって。

真理子

はい。

ネット

もっ少し右です。

執行部2
ネット

こう？
もう少し。

マック別の空間で走っている。α、追いかける。

真理子

仕込みは時間との勝負。舞台セッティングが終わったら、後は照明の振りを慎重に正確に迅速に行なっていく仲間達。プロのお芝居も2時間はかかる仕込みを、私達は15分やらなければならない。不可能を可能にして、予測不能なトラブルを解決する仲間達。その時私達は、時間の神様と戦っている。

マック達消える。

ネット

オッケーです。次お願いします。

執行部1
ウィンドウ

αは。
いない。

部長タ
ネット

え。

執行部1
執行部3

〈執行部3〉。
はい。

執行部3は15番に入る。

執行部1
ネット

同じくらいの背でしょ。

執行部3

はい。もう少し、奥振りで。

演劇ってよく分かんないけど、私は生徒実行委員会が大好きなんだ。みんなと大会を作っているって感じがすごい好きだし、たくさん友達が出る。スポーツバックの中に、参考書とか、体操服とか、お弁当が入ってる高校生はいても、大きなガムが入っている高校生はいない。蓄光テープが入っている高校生はいない。(このセリフは例です。実験でもよいです。)

ネット
生徒1
オッケーです。次お願いします。
20番つけて。

ウィンドウ
部長タ
ウィンドウ
部長タ

この単サス、マック。
マックもない。
何で。
αを探しに行った。

ウィンドウ、台本を叩き付ける。

ウィンドウ
部長タ
ウィンドウ

やる気あんのかあいつら！
大丈夫だよ。きつと間に合うよ。
ごめん。

先生

私が立とうか。背同じくらいだし。

全員

えっ。

先生
ウィンドウ

さあ、じゃんじゃん振ってくれ。立ち方はこうか。それともこうか。先生、普通に立ってください。

先生

はい。
このエリアのエッジが、頭に。

ネット

先生、昔、イギリスに旅行に行ったことがあるんです。このイギリスという国、かなり昔から、学校の時間割に演劇が取り入れられています。だから、今回のことは世界的に見るとそんなに珍しいことじゃない。だって、ロンドンじゃアガサクリステイの「マウストラップ」というお芝居が1957年から上演されているんですよ。毎日毎日50年以上も続いている演劇に毎日お客さんがやって来て、何度も見て、生活の中で話題にして、そして自分達の演劇を作る。だから、これからつくる皆さんの演劇が、君達を作るんだってことだけは間違いないと先生思っています。

執行部2

照明終わりました。ポーター100。

執行部1

副会長、仕込み終わりました。

部長タ

おい。

ウィンドウ

おい。

愛

後ろ。

部長タ

えっ。

見ると、ドス太郎とドメインとリサイクルが、もう一つの介錯棒で、バトンのひもと格闘している。

ドス太郎

まだこのひもがー。

部長タ

あんた、何やってんの。

リサ

だって、ひまだし。

ドメイン

ぜってー届かん。

愛

どうするの。脚立とか。

α

持ってきましたー。

ドメイン

待ってましたー。

脚立セッティング。ドメインが上る。みんなで上を見て、いろいろ言う。

ウィンドウ

マックは。

α

大変なの。アクセスとロビーでケンカしてる。

ウィンドウ

何。

α

よく分かんないんだけど、私が原因みたいなの。

ウィンドウ

あのバカマック。

α

私止めてくる。

α走る。

ウィンドウ

なら、そのまま客席でスタンバイだ。

α

えっ、でも。

ウィンドウ

部長には言っとく。

α

分かった。

生徒11

仕込み終了まであと4分です。

部長タ

何とか取れそっだ。

α去る。

真理子

ねえ、ここも引っかかってない。

部長タ

えっ。

ドス太郎

あー。

真理子

だから、そこも上げながら、こっちもやらないと、同時に。

部長タ

そんなの無理だ。

執行部1

ねえ。

ドス太郎

はい。

執行部1

肩車して。

ドス太郎

はい。

部長タ

介錯棒。

愛

急いで。すぐ。

執行部2

はい。

ドス太郎が執行部4を肩車する。

執行部1

重くない。

ドス太郎

大丈夫っす。

執行部1

あと少し。

ドス太郎

頑張るっす。

ストップモーション。

⑭仕込終了

照明変わる。そこはロビー。

殴り合いながら、マックとアクセス。

何で、いきなりお前にロビーで殴られなきゃいけないんだよ。

バキ。

アクセス

もうすぐ5分前アナが入るぞ。舞台に戻れ。

マック

……アクセス、俺の目を見る。

アクセス
目。
俺の目に何か見えるだろ。
……自やに?
だー。

バキ。ロビーストップ。そして、舞台照明。

執行部4
もう少し、もう少し。
そっちは。

ドメイン
あの、糸が取れたら、あーバンドア邪魔。
ウインドウ
役者、最初のダンスのシーン。立ち位置ついて。

ここに都合だけど、ダンサーはたくさんいてね。

真理子
あれ。αとマックは。
ウインドウ
客席でスタンバイしてる。
部長タ
間に合うか。
ウインドウ
信じる。

部長領く。全員領く。

愛
タイムキープ。
生徒11
あと2分です。

時間よとまれ。

α
やめて、二人ともやめて。マック、ロビーで何をやってるの。
マック
放せ。
α
もう本番なの。
マック
放せ。
α
みんなあんたが来るのを待ってるんだよ。
マック
俺達みんなと一緒にいた、こいつが俺は許せないんだ。

α、マックを殴る。

α
ばか。本番に穴開けたあら、私があんたを許さない。

α。
親父とお袋離婚したんだ。

えっ。

α
でも、部活辞めたのは、親のせいじゃない。やってる暇ないって感じ
で、結局そんな必要ないって母親に言われたけど、今更戻れないし。
何で。

α
生徒会をやりきった方がいいと思ってたんだ。こうなったのは誰のせ
いでもない。なら、今はそれでいい。

α
アクセス。
もちろん、バナナのせいでもない。

アナ「会場のお客様にお知らせします」

お前かつこよすぎ。

そうかな。

でも、今は俺が1歩リードしてます。

はい。

(ほほをさすりながら)今日は顔を洗わない。

えっ。

……先行ってるぜ。

マック去る。

舞台後ろでは。

取れた。

こっちも。

やった。

α
じゃあ期待してる。

うん。

α
ドメイン
執行部1
部長タ
アクセス

アクセス去る。
マック来る。

マック
α
α急いで。
うん。

いつの間にか、バトン下は黒山の人ばかりだった。人混みが崩れる。そこは一瞬ロビーとなる。人混みの中に、αは母を見つける。

α
母さん。

母とα目が合う。
母が何か言う。

α 母
うん。
(がんばってね)

母は人混みに消える。

部長タ
愛
ドメイン
仕込み終了しました。
1ベル。
はい。

1ベルが鳴り響く。

愛
袖幕タウン。
はい。

αは走る。

部長タ、舞台袖にて、ネット調光室にて、リサ音響席にて、インカムを使っている3人。

部長タ

照明音響。

二人

はい。

部長タ

聞こえる？

ネット

聞こえる。

部長タ

2ベル行く。始めるよ。

ネット

まし。

部長タ

まし。

ネット

αとマックは？

部長タ

客席。

リサ

やった。

部長タ

大丈夫だから。

ネット

はいはい。

部長タ

ねえ、最初のコロガシとSS。

ネット

大丈夫だよ。

部長タ

大丈夫。音いい。

リサ

大丈夫です。

部長タ

いいね。

二人

はい。

部長タ

アナウンスお願いします。

部長タ。ダンスに着く役者達を見る。

アナウンス「ただ今より演劇部によります、青柳レイ作、『ばななをめぐる冒険』を上演いたします。」

舞台最初のダンスラインに役者位置に着く。

2ベル。

ダンスM。

部長タ

緞帳半開。

緞帳半開。ダンス。半開になったところから、音に乗ってバナナ姫のαが入ってくる。センターにマックとα。二人黙って向き合う。他の奴らは踊っている。

部長夕

緞帳全開。

全員、それぞれの反応。

緞帳全開。踊り続ける部員達。
踊りの決めポーズ。
αと全員の視線。
間。
音楽が止まる。

真理子役
全員
真理子役
α役
みなさん気合いを入れていきましょう。
はい。
何か連絡のある人。
今日遅刻してしまいました。
全員、ちょっと反応。

⑮素舞台

真理子
全員
お疲れ様でした。
お疲れ様でした。

全員
真理子役
全員
真理子役
はい。
明日やったら、殺します。
(笑いながら) はい。
ほか、連絡。

全員の緊張が解除される。
「3時間目は演劇」の練習が終わった。
素舞台という絶対条件。音もない。何もなし。地明かりのみ。

ちょっとした間。

真理子
これで終わりますので、全員集まってください。

真理子役
全員
では、今日の練習を終わります。お疲れ様でした。
お疲れ様でした。

全員集まってくる。
全員役解除。

全員、それぞれのアドリブをやりながら、三々五々去る。
αが戻ってくる。仕込み図を見ながら、ふと上を見上げて、灯体を見ている。

真理子役
アクセス役
真理子役
全員
みんないるかな。
点呼したら。
あっそっか。じゃあ点呼します。
はい。

真理子役生徒「この「3時間目は演劇」に参加した生徒名を全員点呼。

α
この単が16番で……これが、ああ、これが13番ね……うん……。
αも去る。
緞帳が動く音。
緞帳閉まる。

アクセス役
真理子役
全員います。
では、明日は、(会場名)で「3時間目は演劇」の最終リハってことになりません。

部長夕
全員
お疲れ様でした。
お疲れ様でした。

終わり。